

「里山と奥山、人との関わり方」

1 里山と奥山

① 奥山とは？里山とは？

(小倉百人一首) 五番 猿丸太夫

奥山に もみぢふみわけ なく鹿の 声聞く時ぞ 秋はかなしき

・奥山(人里離れた奥深い山) ↔ 外山(麓の山)

端山(大きな山の麓の小さな山)

・里山……京都大学の林学者四手井綱英氏の造語

日常生活及び自給的な農業や伝統的な産業のため、地域住民が入り込み、
資源として利用し攪乱することで維持されてきた、森林を中心とした景観

2 里山はいつからあるの？今は？

(縄文時代) 人が定住生活を始めてから



(平安時代) 竹取物語

たたら製鉄と炭焼き窯・穴窯、薪取り山として木材利用



(高度経済成長期まで) 1950年代まで一般家庭の燃料は薪と木炭

1960年代にガス・電気が普及



薪・木炭の需要激減 → 広葉樹伐採後にスギ・ヒノキ植林

3 里山は本当に荒れているの？

① 自然の仕組み「植生遷移」

(キーワード) 森の一生は800年、人の一生は80年

コナラ林の下にコナラの若木は育たない

② 里山の維持管理

(キーワード) 木の経済的な利用があって始めて里山は維持できる

③ 結論は……

4 今、動物たちは里山が好き？

ニホンカモシカ・ニホンザル・ニホンジカ・ツキノワグマ……次々に動物たちが里山に出現するのは、なぜ？

- ① 奥山は人工林化が進み、現在は間伐手遅れ林が増加して、動物たち餌は無い
- ② 田畑の耕作放棄や中山間地域の人口減少で里と里山の境界が無くなる
- ③ 動物たちにとって里の食料は超魅力的

(結果) 動物たちは里へ降りてきて、害獣にされる

5 里山を生かしながら、地域おこしは可能？

そこに住んでいる人たちが、自分の住んでいる地域の自然・文化・暮らしが大好きなら、可能性はある！（と思います。）